



# Rational CLM 5.0 アップグレード

CLM 4.0 から CLM 5.0 へのアップグレード手順

2014 年 10 月 3 日

IBM ラショナル ソフトウェア事業部

クライアントサポート部門

テクニカルサポートエンジニア

中條 剛之

**Rational** Software

- Rational solution for Collaborative Lifecycle Management (以下 CLM) バージョン 4.0 から CLM バージョン 5.0 へのアップグレードの手順を説明します。
  - アップグレード手順の説明およびデモ
  - 新しいパッチ適用機能の紹介

# CLM バージョン 5.0 へのアップグレード手順

バージョン 5.0 へのアップグレード手順の流れ:

- 1) 既存 CLM 4.0 環境のバックアップ
- 2) 新規 CLM 5.0 のインストール
- 3) JTS アップグレードスクリプトの実行
- 4) CCM と QM アップグレードスクリプトの実行
- 5) **バージョン 5.0 用ライセンスのインストール**
- 6) **JTS データベースのコピーから RM データベース作成**
- 7) **RM アップグレードスクリプトの実行**
- 8) RM の既製レポートの翻訳バージョンの更新
- 9) 動作検証
- 10) **最新パッチの適用**

v5 ライセンスの置き換え

RM 用データベースは  
JTS データベースから分  
離独立

ワンコンマンド実行で最新  
パッチ適用

# CLM バージョン 5.0 へのアップグレード手順

CLM のアップグレードの計画は、対話式アップグレード・ガイドを使用することで、ご利用の環境に合わせて詳細な手順を確認することができます。

The screenshot shows the IBM Knowledge Center interface. The browser address bar displays the URL: [www-01.ibm.com/support/knowledgecenter/SSYMRC\\_5.0.0/com.ibm.jazz.install.doc/topics/roadmap\\_clm\\_upgrade.html?lang=ja](http://www-01.ibm.com/support/knowledgecenter/SSYMRC_5.0.0/com.ibm.jazz.install.doc/topics/roadmap_clm_upgrade.html?lang=ja). The page title is "Rational Collaborative Lifecycle Management Solution 5.0.0 > Jazz Team Server > アップグレードおよびマイグレーション > Management (CLM) のアップグレード > 対話式アップグレード・ガイド". The breadcrumb trail is: Rational Collaborative Lifecycle Management Solution 5.0.0 > Jazz Team Server > アップグレードおよびマイグレーション > Management (CLM) のアップグレード > 対話式アップグレード・ガイド. The page content includes a navigation menu on the left, a search bar, and a main content area with a yellow highlight box containing the following text:

**バージョン 3 からバージョン 5 へのアップグレード:** バージョン 3 からバージョン 5 へのアップグレードは、2 ステップからなるインクスパックのバージョン 4 リリースにアップグレードしてから、バージョン 5 にアップグレードする必要があります。バージョン 5 の手順については、[最新のバージョン 4 の資料](#)を参照してください。

**z/OS のアップグレード:** z/OS での CLM アプリケーションのアプリケーションについては、[z/OS でのアップグレードの計画](#)を参照してください。

このガイドは、Rational® solution for Collaborative Lifecycle Management (CLM) アプリケーションのバージョン 4 の各リリースにご利用ください。

**ユーザーのインストール環境を最も適切に述べるオプションを選択**

アップグレードするアプリケーションを以下から選択してください。

- Jazz Team Server
- 変更管理と構成管理
- 要求管理
- 品質管理

# CLM システム構成例

今回は次の構成を例として説明します

- アップグレードするアプリケーション：バージョン 4.0.3
  - Jazz Team Server (JTS)
  - 変更管理と構成管理 (CCM)
  - 品質管理 (QM)
  - 要求管理 (RM)
- デプロイメント・トポロジー：単一サーバーのトポロジー
- オペレーティング・システム：Microsoft Windows (2008 R2 64 bit)
- アプリケーション・サーバー：Apache Tomcat
- データベース・サーバー：IBM DB2
- 前のインストールでデータウェアハウスを構成している：はい
- RRDI をアップグレードする：いいえ
- 他の製品と統合する：いいえ

# CLM バージョン 5.0 へのアップグレード手順

バージョン 5.0 へのアップグレード手順の流れ:

- 1) 既存 CLM 4.0 環境のバックアップ
- 2) 新規 CLM 5.0 のインストール
- 3) JTS アップグレードスクリプトの実行
- 4) CCM と QM アップグレードスクリプトの実行
- 5) バージョン 5.0 用ライセンスのインストール
- 6) JTS データベースのコピーから RM データベース作成
- 7) RM アップグレードスクリプトの実行
- 8) RM の既製レポートの翻訳バージョンの更新
- 9) 動作検証

# CLM 4.0 の環境バックアップ

既存の JTS サーバーを停止し、CLM の各種アプリケーションの

- 構成ファイル
- 索引ファイル
- データベース

などをバックアップします。

DB2 データベースのバックアップ コマンド例:

```
db2 backup db JTS to E:\backup\db2 compress
db2 backup db CCM to E:\backup\db2 compress
db2 backup db QM to E:\backup\db2 compress
db2 backup db DW to E:\backup\db2 compress
```

# CLM バージョン 5.0 へのアップグレード手順

バージョン 5.0 へのアップグレード手順の流れ:

- 1) 既存 CLM 4.0 環境のバックアップ
- 2) 新規 CLM 5.0 のインストール**
- 3) JTS アップグレードスクリプトの実行
- 4) CCM と QM アップグレードスクリプトの実行
- 5) バージョン 5.0 用ライセンスのインストール
- 6) JTS データベースのコピーから RM データベース作成
- 7) RM アップグレードスクリプトの実行
- 8) RM の既製レポートの翻訳バージョンの更新
- 9) 動作検証

# 新規 CLM 5.0 のインストール

評価版ライセンス・キーを含む CLM バージョン 5.0 アプリケーションをインストールします。ただし、インストール後にセットアップ・ウィザードは実行しないでください。

新規インストール例: E:\IBM\JazzTeamServer5



# CLM バージョン 5.0 へのアップグレード手順

バージョン 5.0 へのアップグレード手順の流れ:

- 1) 既存 CLM 4.0 環境のバックアップ
- 2) 新規 CLM 5.0 のインストール

## 3) JTS アップグレードスクリプトの実行

- 4) CCM と QM アップグレードスクリプトの実行
- 5) バージョン 5.0 用ライセンスのインストール
- 6) JTS データベースのコピーから RM データベース作成
- 7) RM アップグレードスクリプトの実行
- 8) RM の既製レポートの翻訳バージョンの更新
- 9) 動作検証

# アップグレードスクリプトの実行

\upgrade\<>app>\<app>\_upgrade.bat アップグレードスクリプトを使用

構成ファイルの更新

データベースおよびデータウェアハウス・スキーマの更新

最初に JTS アプリケーションを必ずアップグレード

--> 他のアプリケーション (CCM,QM,RM) をアップグレード

パラメータファイル (\upgrade\jts\params) によるコマンド実行の簡単化

注意: 日本語 OS 環境の RM アップグレードでは利用できません。バージョン 5.0.1 にて、利用できるようになります。

# JTS アップグレード

JTS アップグレード・スクリプトの実行 :

```
E:\IBM\JazzTeamServer5\server\upgrade\jts\params
  set OLD_JTS_HOME=E:\IBM\JazzTeamServer\server\conf
  set OLD_JTS_VERSION=4.0.3
  set UPDATE_TOMCAT_FILES=yes
```

```
cd E:\IBM\JazzTeamServer5\server
upgrade\jts\jts_upgrade.bat
```

ステップ0: 構成ファイル ( teamserver.properties ) 更新

ステップ1: 表の追加

ステップ2: データウェアハウス・スキーマのアップグレード

# CLM バージョン 5.0 へのアップグレード手順

バージョン 5.0 へのアップグレード手順の流れ:

- 1) 既存 CLM 4.0 環境のバックアップ
- 2) 新規 CLM 5.0 のインストール
- 3) JTS アップグレードスクリプトの実行
- 4) CCM と QM アップグレードスクリプトの実行**
- 5) バージョン 5.0 用ライセンスのインストール
- 6) JTS データベースのコピーから RM データベース作成
- 7) RM アップグレードスクリプトの実行
- 8) RM の既製レポートの翻訳バージョンの更新
- 9) 動作検証

# CCM アップグレードスクリプト

CCM アップグレード・スクリプトの実行：

```
E:\IBM\JazzTeamServer5\server\upgrade\ccm\params_jpn
  set OLD_APPLICATION_HOME=E:\IBM\JazzTeamServer\server\conf
  set OLD_APPLICATION_VERSION=4.0.3
  set UPDATE_TOMCAT_FILES=yes
  set NEW_JTS_HOME=E:\IBM\JazzTeamServer5\server\conf
```

```
cd E:\IBM\JazzTeamServer5\server
upgrade\ccm\ccm_upgrade.bat
```

ステップ0: 構成ファイル ( teamserver.properties ) 更新

ステップ1: 表の追加

ステップ2: データウェアハウス・スキーマのアップグレード

# QM アップグレードスクリプト

QM アップグレード・スクリプトの実行：

```
E:\IBM\JazzTeamServer5\server\upgrade\qm\params_jpn
  set OLD_APPLICATION_HOME=E:\IBM\JazzTeamServer\server\conf
  set OLD_APPLICATION_VERSION=4.0.3
  set UPDATE_TOMCAT_FILES=yes
  set NEW_JTS_HOME=E:\IBM\JazzTeamServer5\server\conf
```

```
cd E:\IBM\JazzTeamServer5\server
upgrade\qm\qm_upgrade.bat
```

ステップ0: 構成ファイル ( teamserver.properties ) 更新

ステップ1: 表の追加

ステップ2: データウェアハウス・スキーマのアップグレード

# CLM バージョン 5.0 へのアップグレード手順

バージョン 5.0 へのアップグレード手順の流れ:

- 1) 既存 CLM 4.0 環境のバックアップ
- 2) 新規 CLM 5.0 のインストール
- 3) JTS アップグレードスクリプトの実行
- 4) CCM と QM アップグレードスクリプトの実行
- 5) バージョン 5.0 用ライセンスのインストール**
- 6) JTS データベースのコピーから RM データベース作成
- 7) RM アップグレードスクリプトの実行
- 8) RM の既製レポートの翻訳バージョンの更新
- 9) 動作検証

# CLM サーバー開始

---

サーバーの開始：

バージョン 5.0 アプリケーション・サーバーを開始します。

```
cd 5.0_install_dir\server  
server.startup.bat
```

# 5.0 用ライセンス更新

バージョン 5.0 アプリケーション用に新規ライセンスを取得・更新する必要があります。

トークン・ライセンスを更新の手順：

- JTS 管理画面にログインし、「サーバー」 > 「ライセンス・キーの管理」をクリックします。
- 「フローティング・ライセンス・サーバー」セクションで「追加」をクリックし、バージョン 5.0 のライセンス・ファイルをアップロードします。
- アップロードが完了し、バージョン 4.x ライセンスを削除します。
- 「ユーザー」 > 「クライアント・アクセス・ライセンスの管理」に移動し、トークン・ライセンスを選択し、バージョン 4.x のライセンスを持っていたユーザーのリストがあることを確認します。

The screenshot shows the IBM Rational License Key Center interface. The header includes the IBM Rational software logo and the text 'IBM® Rational® License Key Center'. On the left, there is a navigation menu with categories like License Management, Order Information, Accounts and members, Preferences, Getting help, Language, and Logout. The main content area is titled 'Select License Keys' and contains a table of license keys. The table has columns for 'Item ordered:', 'Part Number:', 'License Key Expiration:', 'Original Maintenance End Date:', 'Sales Order Number:', 'Purchase Order Number:', and 'Order Quantity:'. The first row shows 'IBM RATIONAL COLLABORATIVE LIFECYCLE MANAGEMENT PRACTITIONER (FLT) SINGLE INSTALL' with a part number of 'DOVDXLL' and an expiration date of 'Jan 15, 2015'. Below the table, there is a section for 'v5.0 IBM Rational Collaborative Lifecycle Management Practitioner Floating Activation Kit' with '0 Available' keys. A 'Generated By:' field shows a user name and the date 'Jun 3, 2014'. The 'License File:' field shows the path 'Jazz/CLM\_v5.0\_PRACTITIONER-Floating-Perpetual.zip' and a 'Download' button.

# CLM サーバー停止

---

サーバーの停止：

バージョン 5.0 アプリケーション・サーバーを停止します。

```
cd 5.0_install_dir\server  
server.shutdown.bat
```

# CLM バージョン 5.0 へのアップグレード手順

バージョン 5.0 へのアップグレード手順の流れ:

- 1) 既存 CLM 4.0 環境のバックアップ
- 2) 新規 CLM 5.0 のインストール
- 3) JTS アップグレードスクリプトの実行
- 4) CCM と QM アップグレードスクリプトの実行
- 5) バージョン 5.0 用ライセンスのインストール
- 6) JTS データベースのコピーから RM データベース作成
- 7) RM アップグレードスクリプトの実行
- 8) RM の既製レポートの翻訳バージョンの更新
- 9) 動作検証

# RM アップグレードコマンド

RM アップグレード手順の流れ:

1. RM のデータベース作成 ( JTS DB から復元コピー )
2. RM 構成ファイルのコピー ( conf/jts から conf/rm へ )
3. RM アップグレード・スクリプトの実行 ( repotools コマンド使用 )
  - rmUpdateConfigurationFiles ( 構成ファイルのマージ )
  - addTables ( テーブル追加 )
  - finalizeApplicationMigration ( オフライン・マイグレーション )
  - finalizeApplicationMigration ( RM データクリーン )
  - rmUpdateProjectBackLinksOnline ( プロジェクトリンク情報を更新 )
  - reindex ( 手動再索引付け )

注意: 日本語 OS 環境では RM のアップグレードスクリプト (rm\_upgrade.bat) が利用できないため、repotools サブコマンドを使用します。バージョン 5.0.1 にて、利用できるようになります。

# RM アップグレード

RM のアップグレード(データベースのコピー) :

バージョン 5.0 以降、RM アプリケーションは、データ・ストレージに独自のデータベースを使用します。これまでのバージョンでは、RM データは JTS データベースと共有されていました。

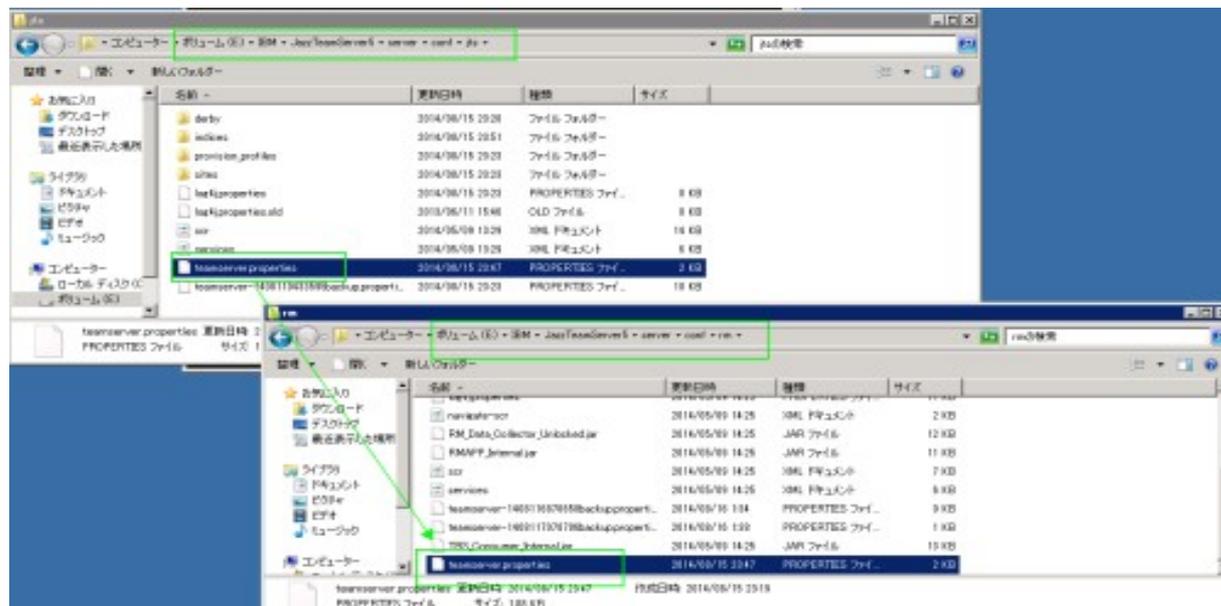
RM アプリケーション・データベースとして使用するために JTS データベースのコピーを作成するには、JTS データベースをバックアップし、それを RM データベースとして復元します。

```
db2 restore database JTS from E:\backup\db2 into RM
```

# RM アップグレード

構成ファイルのコピー( conf/jts から conf/rm へ):

1. JTS\_5.0\_install\_dir/server/conf/jts に移動
2. 構成ファイルを RM\_5.0\_install\_dir/server/conf/rm へコピー
3. 既存のファイルを置き換え



# RM アップグレード

RM アップグレード・スクリプトの実行（構成ファイルのマージ）：

rmUpdateConfigurationFiles repotools コマンドを実行して、既存の構成ファイルを単一の teamserver.properties にマージします。

```
E:\>cd E:\IBM\JazzTeamServer5\server  
repotools-rm.bat -rmUpdateConfigurationFiles  
jts.teamserver.properties="E:\IBM\JazzTeamServer5\server\conf\jts\teamserver.properties"  
teamserver.properties="E:\IBM\JazzTeamServer5\server\conf\rm\teamserver.properties"  
oldApplicationHome="E:/IBM/JazzTeamServer/server/conf/"
```

# RM アップグレード

---

RM アップグレード・スクリプトの実行(テーブル追加) :

-addTables コマンドを実行して JTS の基本スキーマを更新します。

```
repotools-rm.bat -addTables
```

# RM アップグレード

RM アップグレード・スクリプトの実行 (マイグレーション):

-finalizeApplicationMigration コマンドを実行して、必要なオフライン・マイグレーションをすべて完了します。

```
repotools-rm.bat -finalizeApplicationMigration
```

RM アプリケーション ID とパブリック URL がコマンド・ウィンドウに出力されます。後のステップでこれらを入力することになるので、メモを取っておいてください。

# RM アップグレード

RM アップグレード・スクリプトの実行 ( RM データクリーン ) :

以下のコマンドを実行して、JTS から RM データをクリーンアップします。

```
repotools-jts.bat -finalizeApplicationMigration  
  checkOAuthDomain=true  
  applicationId=6db22f91-65bb-4f65-b3d4-6e875869c5c4  
  newPublicUrl=https://vappwin2k8r2ja.test.com:9443/rm
```

メモを取った RM アプリケーション ID とパブリック URL を使います。

# RM アップグレード

RM アップグレード・スクリプトの実行(プロジェクトリンク情報の更新) :  
元の RM プロジェクトを参照するサーバー間のすべてのプロジェクト  
リンク情報を更新します。

今回は単一トポロジの構成で

全 CLM アプリケーションサーバーが同時にオンラインとなるため、次のコマンドを実行 :

```
reptools-rm.bat -rmUpdateProjectBackLinksOnline
```

```
adminUserId=RM_AdminUser
```

```
adminPassword=RM_AdminPass
```

```
repositoryURL=RM_URL
```

(このコマンド実行前にサーバーの起動をします。)

分散トポロジで RM サーバーはオフラインだが、他の CLM サーバーがオンラインの場合

```
reptools-rm.bat -rmUpdateProjectBackLinks
```

# RM アップグレード

RM アップグレード・スクリプトの実行(再索引付け) :

-reindex コマンドを実行し、手動で再索引付けします。

このステップはオプションですが、推奨します。この時点では、RM データの索引はありません。サーバーの始動時に完全に自動再索引付けされますが、サーバーの始動時に遅くならないように、手動で再索引付けを実行することができます。

```
repotools-rm.bat -reindex all
```

# CLM バージョン 5.0 へのアップグレード手順

バージョン 5.0 へのアップグレード手順の流れ:

- 1) 既存 CLM 4.0 環境のバックアップ
- 2) 新規 CLM 5.0 のインストール
- 3) JTS アップグレードスクリプトの実行
- 4) CCM と QM アップグレードスクリプトの実行
- 5) バージョン 5.0 用ライセンスのインストール
- 6) JTS データベースのコピーから RM データベース作成
- 7) RM アップグレードスクリプトの実行
- 8) RM の既製レポートの翻訳バージョンの更新**
- 9) 動作検証

# RM 既製レポート翻訳バージョンの更新

RM 既製レポートの翻訳バージョンの更新：

要求管理アプリケーションをアップグレードした後に、一部の要求管理レポートが、いくつかの言語に翻訳されない可能性があります。

以下のステップを実行します。

- a. ブラウザーを開き、使用したい言語に設定を変更します。
- b. ブラウザーのアドレス・バーに URL `https://hostname.example.com:port/rm/publish/initialize` を入力して公開の初期化ルーチンを実行して、レポートを更新します。

# CLM バージョン 5.0 へのアップグレード手順

バージョン 5.0 へのアップグレード手順の流れ:

- 1) 既存 CLM 4.0 環境のバックアップ
- 2) 新規 CLM 5.0 のインストール
- 3) JTS アップグレードスクリプトの実行
- 4) CCM と QM アップグレードスクリプトの実行
- 5) バージョン 5.0 用ライセンスのインストール
- 6) JTS データベースのコピーから RM データベース作成
- 7) RM アップグレードスクリプトの実行
- 8) RM の既製レポートの翻訳バージョンの更新

## 9) 動作検証

# CLM アップグレード動作検証

アップグレードの動作検証:

アップグレード・プロセスが完了した後で、対話式ガイドのチェックリストなどを使用して各ステップが成功したかどうかを確認します。

- パブリック URL でのアクセス確認
- Jazz Team Server 管理ページの表示確認
- 各アプリケーションの管理ページの表示確認
- 各アプリケーションサーバーごとに診断実行結果の確認
- Rational Team Concert Eclipse クライアント
- Visual Studio クライアントの確認
- ユーザー、ライセンス、およびリンク成果物の検証
- アプリケーション成果物の確認:
  - プロジェクト・ダッシュボード・ウィジェット
  - 「変更管理と構成管理」ワークアイテムおよびリリース計画
  - 「品質管理」テスト計画、テスト・ケース、テスト・スイート、およびテスト・スクリプト

# CLM バージョン 5.0 へのアップグレード手順

バージョン 5.0 へのアップグレード手順の流れ:

- 1) 既存 CLM 4.0 環境のバックアップ
- 2) 新規 CLM 5.0 のインストール
- 3) JTS アップグレードスクリプトの実行
- 4) CCM と QM アップグレードスクリプトの実行
- 5) バージョン 5.0 用ライセンスのインストール
- 6) JTS データベースのコピーから RM データベース作成
- 7) RM アップグレードスクリプトの実行
- 8) RM の既製レポートの翻訳バージョンの更新
- 9) 動作検証
- 10) **最新パッチの適用**

# CLM アプリケーションのパッチ・サービス

リポジトリ・ツール・コマンドを使用してサーバー上のアプリケーションにパッチ修正を適用する、新しい CLM パッチ・サービスが使用可能になりました。

パッチ修正の適用コマンド例:

```
repotool-jts.bat -patchApplyGlobal file=E:\tmp\CLM_server_patch_5.0.0.0-  
CALM50M-I20140909-1206.zip
```

パッチ修正の削除コマンド例:

```
repotool-jts.bat -patchRevertGlobal
```

分散デプロイメントでは、各サーバーに対して個別にパッチ修正を適用する必要があります。

# CLM アプリケーションのパッチ・サービス

最新 CLM パッチは、[Jazz Collaborative ALM Maintenance](#) プロジェクトで確認できます。弊社サポート経由でご提供いたします。

The screenshot displays the Jazz Collaborative ALM Maintenance dashboard. At the top, there is a navigation bar with a home icon and the text "Jazz Collaborative ALM". Below this, a secondary navigation bar contains links for "プロジェクト・ダッシュボード", "ワークアイテム", "計画", "ビルド", and "レポート". The main content area shows the breadcrumb "すべての Jazz Collaborative ALM ダッシュボード > Jazz Collaborative ALM >" followed by the title "Jazz Collaborative ALM Maintenance". A series of tabs are visible: "General", "3.0.1.6 Maint", "4.0.7", "CLM 4.0.7 iFix", "CLM 5.0 iFix" (selected), and "CLM 5.0.1 iFix". The "Roles, Responsibilities and Focal Points" section is expanded, showing "CLM L3 Roles, Responsibilities and Focal Points." and a link for "L3 Roles and Focal Points". The "Executive Status" section is also expanded, featuring a green-bordered box around the heading "CLM 5.0 iFix Status" and the sub-heading "CLM 5.0 iFix005 Plan Item (Sept. 17 - Nov. 7, 2014)". Below this, a list of milestones is provided: "milestone 1: Dev + validation. DCUT Oct. 24 << we are here", "milestone 2: Regression test. Oct. 31.", and "milestone 3: Ship ready. Publish. Nov. 7". A note states "Latest 5.0 iFix published on FixPortal:" followed by another green-bordered box around the text "CLM 5.0 iFix004: RTC, RQM, RDNG (each iFix is published under individual CLM product for easy searching with same iFix content)".

# QUESTIONS

# Thank You

[www.ibm.com/software/rational](http://www.ibm.com/software/rational)

© Copyright IBM Corporation 2014. All rights reserved.

本資料の情報は情報提供のみを目的として現状のまま提供され、明示的または暗黙的であるかを問わず、いかなる保証もいたしません。IBM は本資料の使用に起因するいかなる損害についても責任を負いません。

本資料は、IBM (または IBM のサプライヤーまたはライセンサー) にいかなる保証責任を負わせるものではなく、また、IBM ソフトウェアの使用に際し適用される、プログラムのご使用条件の内容も変更するものではありません。本資料に記載の製品、プログラム、またはサービスが日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、プログラム、またはサービスについては、日本 IBM の営業担当員にお問い合わせください。本資料で言及されている製品のリリース日および性能は、市場機会やその他の要因に基づいて、IBM の判断により随時変更される場合があります。また、それらによって、今後その製品または機能が利用できるようになることを IBM が確約するものではありません。

IBM、IBM ロゴおよびその他の IBM 製品は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。



# 免責事項

---

当資料は、お客様の問題解決のためのヒントとしてご利用ください。当資料における記載内容は、お客様固有の問題に対し適切であるかどうか、また正確であるかどうかは十分検証されていません。結果についていかなる保証も責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。